

令和8年3月30日

那賀医師会 会員各位

那賀医師会
地域医療担当理事 田中 賢

令和8年度 第1回公立那賀病院との合同勉強会のご案内

公立那賀病院との合同勉強会を下記のとおり行います。ご多忙中とは存じますが、多数のご参加をお願い致します。

記

日 時：令和8年4月9日（木）午後4時から

場 所：公立那賀病院 北別館 1階講義室

演 者：公立那賀病院 脳神経外科（認知症疾患医療センター）
藤田 浩二 先生

演 題：「認知症の最新の薬物療法トピックス」

要 旨：別紙をご参照ください。

※この勉強会は日本医師会生涯教育講座：1単位
カリキュラムコード：（ 29 ）を申請中です。

※お手数ですが、B会員の先生方にもご案内下さいますようお願い致します。

別紙

要旨：

高齢化の進展に伴い認知症患者数は増加しており、認知症の薬物療法に対する治療選択肢が増えつつある。従来、認知症治療は認知症患者に対するコリンエステラーゼ阻害薬(ドネペジルなど)や NMDA 受容体拮抗薬(メマンチンなど)を中心とした対症療法が主体であったが、近年は認知症の前段階である軽度認知障害患者に対する介入など、治療標的かつ戦略が劇的に変化している。

特にアルツハイマー病(AD)に対しては、脳内に蓄積するアミロイドβを標的とする抗アミロイドβ抗体薬(2023年9月にレカネマブ、2024年9月にドナネマブが本邦で承認)が臨床応用され注目されている。本治療の対象は「ADによる軽度認知障害」または「ADによる軽度の認知症」に限定されている。したがって本薬剤使用に対する適切な患者選択にあたり、的確な認知症診断が重要となる。当院認知症疾患医療センターでの早期かつ的確な認知症診断、特に統計学的画像解析を駆使した取り組みを紹介する。

また、従来薬の新たな剤形として2023年4月にコリンエステラーゼ阻害薬の貼付薬が登場し、内服困難例に対する使用や服薬アドヒアランスの改善が期待されている。さらに、ADによる行動・心理症状(BPSD)に対する薬物療法として、セロトニン・ドパミン系に作用するブレクスピプラゾールが2024年9月から適応となり、興奮や易怒性などの症状に対する新たな治療選択肢となっている。

本講演ではこれらの新規治療薬の特徴、適応、当センターでの使用例を供覧し、今後の展望について解説する。